令和３年度

全国私立中学高等学校　私立学校専門研修会

法人管理事務運営部会

実施報告

主催　一般財団法人日本私学教育研究所／後援　日本私立中学高等学校連合会

【研究のねらい】

激変する社会を生き抜く私学の働き方改革

～これからの部活動とワーク・ライフ・バランス～

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、新しい生活様式・働き方改革が社会全体に浸透した。私立学校においても、オンライン授業の実施にとどまらず、部活動のあり方の見直しや教職員のテレワーク導入等大きな変化があった。今後、更に部活動改革や働き方改革に努めることで、激変するポストコロナ時代において、教職員のワーク・ライフ・バランスを実現し、教育の充実につなげることができるだろう。

当部会では、激変する社会を生き抜くための働き方改革に焦点を当て、これからの私学における働き方やワーク・ライフ・バランスについて妹尾昌俊氏による講演、ポストコロナ時代における部活動のあり方やこれからの教職員の働き方について東京成徳大学中学高等学校、学校法人芝学園の 2 校による実践報告を行う。研究討議では、参加者が意見・情報交換を行い、最新情報と課題を共有することで、各学校における課題解決の手がかりを探っていく。

◆会　　期◆　令和 3 年 11 月 26 日（金）

◆会　　場◆　KFC Hall & Rooms

東京都墨田区横網一丁目6番1号　TEL 03-5610-5801
●JR中央・総武線「両国駅」東口より徒歩約6分
都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1 出入口より徒歩 0 分

◆参加人数◆　75 名

◆参加対象◆　理事・事務局長・事務長等の事務管理職並びに校長・副校長・教頭・教務部長等の教育管理職
※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

◆研修内容◆

【講　　演】「私立学校における働き方改革をどう進めるか～ワーク・ライフ・バランスのよい職場づくりはなぜ大切か～」
妹尾　昌俊　教育研究家、合同会社ライフ＆ワーク代表
NPO 法人まちと学校のみらい理事
学校業務改善アドバイザー

【実践報告Ⅰ】「これからの部活動が進むべき方向とは？」
野中　修也　東京成徳大学中学高等学校前副校長

【実践報告Ⅱ】「芝中学校芝高等学校教職員の働き方について」
野尻富太郎　学校法人芝学園常務理事・事務局長
堀口　貫治　芝中学高等学校副校長

【研 究 討 議】「激変する社会を生き抜く私学の働き方改革」
グループ討議（1 グループ 10～15 名程度）・・・参加者による討議と情報交換

◆日　　程◆　※プログラムは変更になる場合があります。

9 30	10	11 10	40	12 40	13 50	14	15	16 30	40	17
受付	開会式	実践報告Ⅰ（60分）	実践報告Ⅱ（30分）	昼食	研究討議Ⅰ（70分）		講演（90分）		研究討議Ⅱ（50分）	閉会式

◆講師プロフィール・学校紹介◆

【講　　演】

妹尾　昌俊（せのお　まさとし）　教育研究家、合同会社ライフ＆ワーク代表
NPO 法人まちと学校のみらい理事
学校業務改善アドバイザー

徳島県出身。京都大学大学院法学研究科を修了後、野村総合研究所を経て、2016 年から独立。
文科省での講演のほか全国各地の管理職研修、教員研修、事務職員研修、講演、教育委員会等のアドバイザーなどを手がけている。現在、単著８冊の本を出版。執筆活動も精力的に行っている。
学校業務改善アドバイザー（文科省委嘱のほか、埼玉県、横浜市、石川県、高知県、宮崎県等）、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員、スポーツ庁、文化庁において、部活動のあり方に関するガイドラインをつくる有識者会議の委員も務めた。
NPO 活動では、中高生と地域人材が地域課題解決に取り組む「市ケ尾ユースプロジェクト」の企画・運営などにも携わっている。

【実践報告Ⅰ】

学校法人東京成徳学園　東京成徳大学中学高等学校（理事長・校長　木内　秀樹）

本校の教育目標の一つに「文武両道」がある。学問と部活動は互いに深く関係しあい、相加相乗的な効果を上げると信ずる。自分を苦しめる学習・練習負荷にも、正面から真っ向勝負を挑む。そのようなたくましい精神の育成を目指している。さらに「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きる意味がない」を目指し、共に前進する仲間との絆を互いへの思いやりで強く結ぶ。
本校の部活動加入率は 85%を超え、互いに切磋琢磨し、友情を深める。それが安定した学習活動、高い学習意欲へとつながっている。昨年度女子バスケットボール部はウィンターカップ（全国選手権）にて準優勝を果たした。ラクロス部、バトントワリング部も全国大会優勝の経験を持つ。

【実践報告Ⅱ】

学校法人芝学園　芝中学高等学校（理事長　小林　正道、校長　武藤　道郎）

芝増上寺境内で明治 39 年創立以来 115 年を迎える中高一貫の男子校。13 世紀浄土宗関東十八檀林の僧侶養成に当たった増上寺の中の教育担当部局に発し明治 20 年発足した浄土宗学東京支校が前身。東京の中心部で東京タワー、東京プリンスホテル、愛宕ヒルズ等近代的な建築物に囲まれた立地でありながら芝増上寺の境内地であった自然豊かな芝公園に囲まれ仏教校らしくのんびりした校風が特徴。
校訓は遵法自治。道徳教育と宗教的情操教育を根幹において真理を愛し創意に富んだ個性豊かな奉仕的人格をめざして教職員は学習の指導に当たっている。進学校には珍しく学校説明会でも大学合格実績に言及しないユニークな学校。

◆講師・報告者・指導員（順不同）◆

妹尾　昌俊	教育研究家、合同会社ライフ＆ワーク代表 NPO 法人まちと学校のみらい理事 学校業務改善アドバイザー
野中　修也	東京成徳大学中学高等学校前副校長
野尻富太郎	学校法人芝学園常務理事・事務局長
堀口　貫治	芝中学高等学校副校長
平方　邦行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆専門委員・指導員（順不同）◆

工藤　誠一	聖光学院中学高等学校理事長・校長
服部　泰啓	学校法人信愛学園理事長
摺河　祐彦	姫路女学院中学高等学校理事長・高校長
川島　英和	学校法人川島学園理事長
野尻富太郎	学校法人芝学園常務理事・事務局長
川本　芳久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

◆会場案内図◆

●都営地下鉄大江戸線「両国駅」
A1 出入り口より徒歩 0 分
JR 中央・総武線「両国駅」東口より徒歩約 6 分
（右記地図参照）

◆プログラム◆

【全体会場】KFC Hall & Rooms　3階　KFC Hall

9:00～9:30	◇受　　付◇
9:30～10:00	◇開　会　式◇　　司会　川本芳久　理事･事務局長 １．開会 ２．主催者代表挨拶　　**平方　邦行**　一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 ３．役員・専門委員紹介 ４．研修会運営方針説明　**工藤　誠一**　法人管理事務運営専門委員長 ５．日程説明 ６．閉式
10:00～11:00	◇実践報告Ⅰ◇　　司会　川島英和　専門委員 テーマ　**「これからの部活動が進むべき方向とは？」** 報告者　**野中　修也**　東京成徳大学中学高等学校前副校長
11:10～11:40	◇実践報告Ⅱ◇　　司会　服部泰啓　専門委員 テーマ　**「芝中学校芝高等学校教職員の働き方について」** 報告者　**野尻富太郎**　学校法人芝学園常務理事・事務局長 **堀口　貫治**　芝中学高等学校副校長
11:40～12:40	◇昼　　食◇
12:40～13:50	◇研究討議Ⅰ◇ テーマ　**「激変する社会を生き抜く私学の働き方改革**（実践報告Ⅰ・Ⅱを受けて）」 指　導　**堀口　貫治**　芝中学高等学校副校長 **○グループ討議** Ａグループ　〔司会　工藤誠一 専門委員長〕　【会場　11 階　Room115】 Ｂグループ　〔司会　平方邦行 理事・所長、野尻富太郎 専門委員〕　【会場　11 階　Room113】 Ｃグループ　〔司会　嵯峨実允 専門委員、服部泰啓 専門委員〕　【会場　10 階　Room108】 Ｄグループ　〔司会　摺河祐彦 専門委員〕　【会場　10 階　Room107】 Ｅグループ　〔司会　川島英和 専門委員〕　【会場　10 階　Room106】
14:00～15:30	◇講　　演◇　　司会・講師紹介　摺河祐彦　専門委員 演　題　**「私立学校における働き方改革をどう進めるか ～ワーク･ライフ･バランスのよい職場づくりはなぜ大切か～」** 講　師　**妹尾　昌俊**　教育研究家、合同会社ライフ＆ワーク代表 NPO 法人まちと学校のみらい理事 学校業務改善アドバイザー
15:40～16:30	◇研究討議Ⅱ◇ テーマ　**「激変する社会を生き抜く私学の働き方改革**（講演を受けて）」 **○グループ討議** ※グループ、司会及び会場は「研究討議Ⅰ」と同様
16:30～17:00	◇閉　会　式◇　　司会　川本芳久　理事･事務局長 １．開式 ２．研究討議の各グループからの報告 ３．総括　　**工藤　誠一**　法人管理事務運営専門委員長 ４．閉会挨拶　　**平方　邦行**　一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

●実施概要●

11 月 26 日、「激変する社会を生き抜く私学の働き方改革～これからの部活動とワーク･ライフ･バランス～」を研究のねらいとして、KFC Hall & Rooms で開催し、75 名が参加した。

午前は、野中修也・東京成徳大学中学高等学校前副校長による実践報告Ⅰ「これからの部活動が進むべき方向とは？」、野尻富太郎・学校法人芝学園常務理事・事務局長と堀口貫治・芝中学高等学校副校長による実践報告Ⅱ「芝中学校芝高等学校教職員の働き方について」を行い、午後は、妹尾昌俊・教育研究家／合同会社ライフ＆ワーク代表／NPO 法人まちと学校のみらい理事／学校業務改善アドバイザーによる講演「私立学校における働き方改革をどう進めるか～ワーク･ライフ･バランスのよい職場づくりはなぜ大切か～」を行った。「研究討議」は実践報告と講演を受けての 2 回に分けて行い、参加者が課題を共有すると共に、交流を図った。参加者からは「講演は新しい視点で働き方改革を考えることができた」、「実践報告が具体的で大変参考になった」等好評であり、盛会裡に終了した。

●開会式●

平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所理事･所長が主催者を代表して、以下の通り挨拶した。

今回のテーマにもある「激変する社会」をどのように生き抜くのか。私立学校はこの課題を突破できるのか。今までは創意工夫で解決できた問題がたくさんあったが、今後、突破できない問題が出てくる。その時は、また違う形の働き方改革で解決する方法を模索するだろう。今日は近々の課題をしっかり理解頂き、皆さんで話し合って頂く事が大きな研修の内容だが、是非これからの長いスパンも考えながら、学んで頂きたい。

続いて、工藤誠一・専門委員長が以下の通り挨拶した。

近年、この法人管理事務運営部会に参加される先生方は事務職に加え、理事長、校長、教頭といった学校運営に携わる先生方も参加頂く事が多くなってきた。時代の変化に対して、教育現場での様々な問題を解決していかなければならないが、その中でも働き方改革が非常に注目を浴びている。コロナ禍の中で対面授業からオンライン授業への切り替えやクラブ活動や学校行事の開催方法といった様々な問題の対応に追われ、働き方改革の進み方が少しゆっくりになってしまっている学校も少なくないと思う。働き方改革に関してはそれぞれの先生方の考え方、労働組合の交渉等もあるので、なかなか進みづらいが、ぜひこういった機会に情報交換等もされて、本日の実践報告や講演もおおいに参考にしていただきたい。

●実践報告Ⅰ●

テーマ　「これからの部活動が進むべき方向とは？」
報告者　野中　修也　東京成徳大学中学高等学校　前副校長

野中修也先生より、部活動の指導や管理等ご自身の経験談も踏まえ、①自校の部活動運営について（複数顧問制度や強化指定部の設置、外部指導員の導入）、②働き方改革を行うために必要な「部活動の民主的な運営」と「生徒による自主自律的な組織運営」につながる部活動におけるリーダー的存在の重要性、③感動を与える組織が部活動であるという自校における部活動の捉え方、④コロナ禍における動画等オンラインを利用した部活動の取り組みについて説明された。

●実践報告Ⅱ●

テーマ　「芝中学校芝高等学校教職員の働き方について」
報告者　野尻富太郎　学校法人芝学園　常務理事・事務局長
　　堀口　貫治　芝中学高等学校　副校長

野尻富太郎先生と堀口貫治先生より、私立学校における業務効率化や長時間労働への対応等について、自校の財務改善の歩みや労働組合との交渉・労使合意への道のり、変形労働時間制に対応したオリジナルの出退勤管理表の作成過程等を公開しつつ、説明された。

●講　　演●

演　題　「私立学校における働き方改革をどう進めるか
　　～ワーク･ライフ･バランスのよい職場づくりはなぜ大切か～」
講　師　妹尾　昌俊　教育研究家、合同会社ライフ＆ワーク代表
　　NPO 法人まちと学校のみらい理事
　　学校業務改善アドバイザー

福岡県の県立高校で「朝課外 0 時限目」というものをやっていると数年前に地元紙で報道された。朝の 7 時半頃から授業を始めるというもので、体裁としては自由参加の課外活動･補習となっているが、それは名目上だけで実際は通常授業を行っており、事実上の強制参加であった。これに対し、事実上の「強制」ではないかと問題視する声が上がった。睡眠時間を削って、勉強するというような学力向上につながると思われていることが、実は学力的にマイナスにつながっていることがある。また、朝課外に出られない小さな子供がいる先生を排除している学校もある。私立学校でも補習や部活動をたくさんやっているところが多いと思うが、育ち盛りの生徒達の睡眠不足を助長していないだろうか。また、私立学校は「夏休みはしっかり合宿をやる」や「7 時間目や土曜日までしっかり補習をやって、学力向上に努めている」といった、たくさん面倒を見ているとアピールしている学校が多いが、これを逆に捉えると、先生方や生徒達のワーク・ライフ・バランスについて無頓着だなというイメージにつながるかもしれない。物事には良いことばかりでもないし、悪いことばかりでもない。効用と副作用をしっかりと注意しなければならない。教育の場では、生徒達の成長を見て教師になって良かったなと思う一方、副作用を軽視してしまう場合がある。時間は有限であり、何かをしようとすると何かを犠牲にしなければならない。例えば、授業の時間をたくさん取ると、子供達の睡眠時間を犠牲にするかもしれない。

事前質問に「働き方改革＝時短というように残業時間縮減という考え方が蔓延しているようだが、どうなのか。」というものがあった。労働基準監督署の調査をクリアすれば良いのか、残業時間・残業代が減れば良いのか。結局、働き方改革やワーク・ライフ・バランスを推進していくのは、何のためにするのかという部分が腑に落ちないと改革へのエンジンが掛からないと思う。変形労働時間制をどう組み込むか、部活動の指導をどうするか等様々な手段があるが、まずは何のためにやるのかを認識しなければスタート地点にも立てない。様々な答えがあるが、ここで 3 つ解説したい。1 つ目は健康の話。子供達の命・安全を守るのはもちろん大事だが、教職員の命・安全を守るのも非常に重要である。教職員は何か 1 つで多忙なのではなく、複数の仕事を持って多忙なのである。まず、教職員の健康・命を守るためにも働き方改革に努めなければならない。そこで、現場監督者は仕事の安全配慮が必要である。今回は法人本部の職員の方

や管理職も多く参加されているので、改めて重要性を認識してほしい。残業時間が 45 時間を下回れば絶対大丈夫という訳ではない。リスクの世界は 0 か 100 の問題ではない。あくまで 1 つの目安として 45 時間という数字で示している。労働基準法の原則上限として 45 時間と指定されているが、一般の先生方も知らないことが多いため、情報共有をすることも大切である。働き方改革がすべて時短のためにというわけではないが、1 つのモニタリング材料として時間を大事にしないと教職員の健康に影響が出てくる。

2 つ目は、立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏が提言している「人は 3 つのことで学ぶ」について。①「人は本から学ぶ」、②「人は旅から学ぶ」、③「人は人から学ぶ」である。①は歴史や失敗談がまとめられた書籍を読むことで学ぶことが多い。②は旅行を受けてインスパイアを受けることも多く、学校内でも違う教科の授業を見に行ったりして感じることが多々あると思う。

忙しすぎると本を読む機会が少なくなると思う。これは学ぶことを放棄していると同義である。長時間労働の弊害のひとつに先生達の学びの貧困が挙げられる。事前質問にて、「残業時間を減らしても教育の質を上げなければならないのは現実であるが、どうしたら良いか」とあったが、ここに答えのヒントがあると思う。公立学校では、文部科学省や教育委員会から「働き方改革は子供と向き合う時間の確保のために行う」と言われている。但し、これは半分正解で半分間違っていると思う。子供達と向き合うことは大切だが、時間は減らせない。私は「自分と向き合う時間の確保」と言った方が正しいと思う。また、これからの教育は知識だけでは答えられない問題を解かせることを重視する。子供達に本当に必要な資質・能力を育成するには、教職員も学んでいかなければならない。

3 つ目は人材確保の話。昨今の就活生には、楽しく働ける環境、個人の時間とワーク・ライフ・バランスや人のためになる仕事のニーズが非常に高まっている。逆に嫌な会社の概念はと問うと、ノルマがきつそうな会社や暗い雰囲気の会社、休日・休暇が取れない会社と出ている。土曜日の授業や夏休みの勉強合宿等、ノルマや休日が取れないといったことを考えながら人材確保を考えいかなければならない。週休 3 日制にする企業が少しずつ出てきている。メガバンクですら週休 3 日が選べる時代である。それだけ少子化による人手不足が迫っている。労働人口が減少している。私はよく企業の人とも話す機会があるが、企業の働き方改革を進める一番の理由が良い人材を獲得する、または、良い人材を定着させたいがために、ワーク・ライフ・バランスや居心地の良さを重視している。これは、企業の競争力に関わってくる。

ここでまとめると、なぜ働き方改革が大事なのかという理由は今、お話しした 3 つである。一つ目は「健康、命を守る」、二つ目は「豊かな時間を取り戻すことによる教育への良い影響」、三つ目は「人材獲得」である。改めて何のために働き方改革をするのか考えてほしい。

働き方改革はマラソンのようなものなので、ついつい後回しになりがちである。働き方改革が大事であるという認識は持っているものの、アクションプラン（工程表）等を作っている学校は少なく、ちょっとした改善にとどまってしまう。まず、打開策の一つ目として手間はかかるが、なぜ働き方改革が重要かをよく職場内で話し合ってもらいたい。二つ目は、強い慣習・弱いアンラーニング（学習棄却）。今までの成功体験を一度捨てることを指し、今までの指導の仕方に慣れ親しんでいるため、これを顧みたりアップデートしたりすることが苦手な傾向にある。三つ目は管理職が重要性をしっかり理解し、組織マネジメントの徹底を心掛けることにある。四つ目は、対人関係におけるリスクをとっても安全だろ信じられる「高い心理的安全性」と「高い業績基準」が両立した職場を目指すことにある。

また、次の 3 つの事項もチェックしてほしい。①アイデア等率直に意見を言える会議の場は設けているか。②出されたアイデアを実行することを決める場設けているか。③フォロワーアップして軌道修正する場を設けているか。

現場の先生から学校行事を一部減らす等子供のためになることを減らすことが働き方改革なのかとよく聞かれる。自分ができることを見極める。効果ばかりを見るのではなく、時間や負担等を踏まえてバランス良く改革に努めるべき。

最後に、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉があるが、私は「ワーク・ライフ・シナジー」と呼びたい。先生という職業は、ワークとライフが明確に分かれない。教材研究や授業づくりに伴うネタ探しはライフに侵食している。自己研鑽か授業のネタ探しかの境界線が見えづらい。「ワーク・ライフ・シナジー」を実現するには、ワーク偏重にならないよう注意してもらいたい。また、多忙の要因・内訳をしっかり見極める必要もある。多忙の要因によってアプローチの仕方が変わる。採点一つでも工夫次第で時短でき、他のことに時間が当てられるようになる。個人だけの改革にならないように注意し、組織単位で考えていく必要がある。

●グループ討議Ⅰ・Ⅱ●

「激変する社会を生き抜く私学の働き方改革」

5つのグループに分かれ、「2つの実践報告を受けて」と「講演を受けて」の2回に渡り、テーマに係る各校の取り組みや事例、課題等の情報交換を行った。堀口貫治 氏が各グループを回って指導助言を行い、部活動から労務問題といった多岐にわたるテーマについて活発な話し合いとなった。

●閉会式●

まず、各グループの代表者が各々話し合われた内容について報告を行い、全体でグループごとの討論内容を共有した。報告内容としては、「部活動の位置づけや対応について」、「勤怠管理について」、「ICT の導入方針について」等があった。

続いて、工藤誠一・専門委員長が次のように研修会を総括した。

今、それぞれの私学が直面する問題につきまして、今回は特に働き方改革とそれに伴う学校運営をテーマに研修会を行った。これから各地に戻って、それぞれの日々の学校運営にあたられることと思うが、今日の研修内容をぜひご活用頂ければと思っている。私学はそれぞれ建学の精神が異なっているが、明日の我が国を担う青少年を育成するという観点から共に力を合わせてネットワークを組んで前に進んで行ければと考えている。全国私学教育研究集会は来年、岐阜県で開催する。その際、法人管理事務運営部会も設置しているため、ぜひそういった場で再び先生方とお目に掛かり、情報交換ができればと思っている。

最後に、平方邦行・一般財団法人日本私学教育研究所所長が主催者を代表して、以下の通り挨拶した。

今日は最初に実践報告から始まり、講演と 2 つの研究討議を通してたくさんのことを学ばれたと思う。今後も様々な難題が皆さんの学校に降り掛かってくることだろうが、是非負けずに頑張って頂ければと思う。我々私立学校は、様々な難題に対しても真摯に向き合って、日本の教育を牽引しているということを忘れないでほしい。

●参加者アンケートまとめ●　　回答率 75%〔56／75 名〕

○当研修会への参加を決めた動機

・全国の学校の働き方改革の情報収集のため。他校の事例・動向・実状を知るため。
・今後の改革の指針が見えればと思い参加した。
・学びたい内容が沢山盛り込まれていたため。内容が大変良いと思ったため。

○講演（妹尾氏）

・事例を取り上げながら、分かりやすい内容だった。
・違う視点からの考え方や生徒目線での情報が得られて良かった。
・ワーク・ライフ・バランスの重要性と実力性について是非試してみたいと思うことが多々あった。
・様々に深く考える視点が含まれた内容のお話で、改めて自分の学校を見つめ直す機会となった。
・先生の話術に引き込まれ、時間があっという間に過ぎた。大変参考になる話で、今後に活かしたいと思う。

○実践報告Ⅰ（野中先生）

・具体的な内容で大変参考になった。今後の部活動の在り方について参考になった。
・ご自身の陸上部指導経験に基づく、実感のこもったご報告だった。
・部活動に対する思いや苦慮している部分がとてもよく伝わってきた。
・生徒の自主自営と教員の働き方改革は繋がっているという考え方が参考になった。
・先生の部活動についての考え方について、生徒のリーダーを育て文武両道の実践をされていることに感動した。

○実践報告Ⅱ（野尻先生・堀口先生）

・非常によく考えられたシステム構築をされており、大変参考になった。
・時間外手当に対する具体的事例が大変参考になった。
・対組合交渉内容に臨場感があり、導き出された方針も参考になった。
・働き方改革を進める上で終始ためになる話だった。今後の学校運営に活かしたい。
・本校でも対応している問題なので意義あるものになった。

○研究討議

・各校の課題、悩み、取り組みを知ることができてよかった。
・学校によって状況が異なるということが分かり、情報交換の場となり有意義だった。
・同じ問題を抱えていても対応が違うので大変参考になった。
・内容ある情報交換ができて良かった。テーマが明確だったのが良かった。
・自分にとっては初めてのことばかりで、とても刺激的で勉強になることばかりだった。

○研修で得られた成果を学校運営にどのように活かしていくべきか

・今回の研修で人材育成、部活動、教員評価など、全ての面で参考になったので、就業規則の見直しから入り、再度、働き方改革の取り組みをしなければいけないと強く感じた。
・教職員とのコミュニケーションを豊かにはかりながら、働き方改革を進めていく所存である。
・働き方改革の原点を今一度学内で再確認し、改革・改善を進めていきたい。部活については、教員以外の力をメインとして運営していくようにしていきたい。

○コロナ禍を受けて貴校（法人）の事務・学校運営・教職員の働き方等で以前と変化したこと

・ICT 活用が進み、さらにペーパーレスになった。朝の打ち合わせもタブレット端末を使い、時間短縮した。
・無駄を省き、効率化を図るようになった。
・事務職で在宅ワークが通常の勤務でも始まった。

○コロナ禍を受けて始めた取り組みで、コロナ禍収束後も同様に続けていきたいと考えている取り組み

・ICT を用いた教育活動の拡大
・クラブ活動の最終活動時間の見直し
・テレワーク（事務室）の推進

○今後の研修会への希望

【取り上げて欲しいテーマ、具体的な研修内容等】

人事考課・人事評価について【7 名】
働き方改革【6 名】
定年後の再雇用のあり方と定年延長について【2 名】
変形労働制の事例について
5～10 年前に多かった学校改革について（その後）
部活動問題について
インクルーシブル教育に関わる諸問題
一人一台端末を持たせて利用している学校の実践報告、経費（保護者負担）、利用アプリ等
財務に関する研修（上級）

【プログラムについて】

・研究討議の意見交換をよりしやすくするため、1 グループの人数を少なくしてほしい。（理想は 1 グループ 7、8 人。）
・コロナ禍で難しいと思うが、懇親の場などもあると良い。
・事前に参加者からテーマに沿ったアンケートを実施し、それを研究討議の際に利用したらどうかと思う。

●都道府県別参加者数●

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	0	17	石川	0	33	岡山	0
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	1
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	0	20	長野	1	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	1	37	香川	1
6	山形	1	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	2	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	1	40	福岡	4
9	茨城	1	25	滋賀	1	41	佐賀	0
10	栃木	4	26	京都	3	42	長崎	1
11	群馬	3	27	大阪	3	43	熊本	0
12	埼玉	1	28	兵庫	1	44	大分	0
13	千葉	1	29	奈良	0	45	宮崎	0
14	神奈川	6	30	和歌山	0	46	鹿児島	1
15	東京	29	31	鳥取	4	47	沖縄	2
16	富山	1	32	島根	1			
						25 都府県・合計 75 名		

＊＊＊

次年度（令和 4 年度）私立学校専門研修会・法人管理事務運営部会は
東京都千代田区・大手町プレイスカンファレンスセンターにおいて
令和 4 年 8 月 5 日（金）に開催致します。

2022.2　一般財団法人日本私学教育研究所